

農作物病害虫発生現況情報（8月） 水稻編

1 いもち病

(1) 葉いもち

8月上旬の巡回調査（全県：176圃場）では、発生圃場率は2.8%（平年5.2%）で平年より低く、上位3葉における発生圃場率は6.9%（平年8.7%）で、平年並だった（図1、2）。

(2) 穂いもち

8月下旬の巡回調査（74圃場、沿岸部除く）では、発生圃場率は12.2%（平年5.9%）で平年より高かったが、発生程度少以上の圃場はみられなかった（図3）。

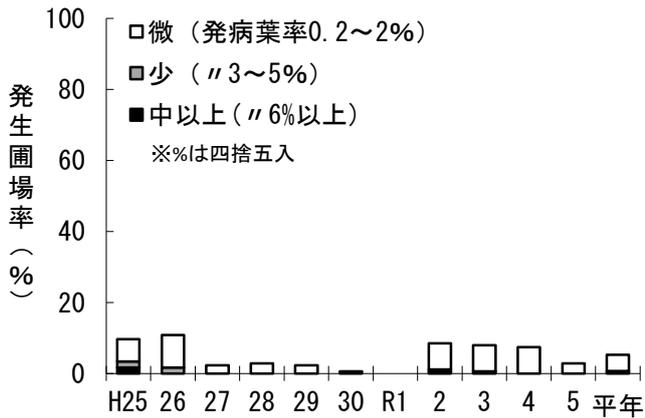


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（8月上旬）

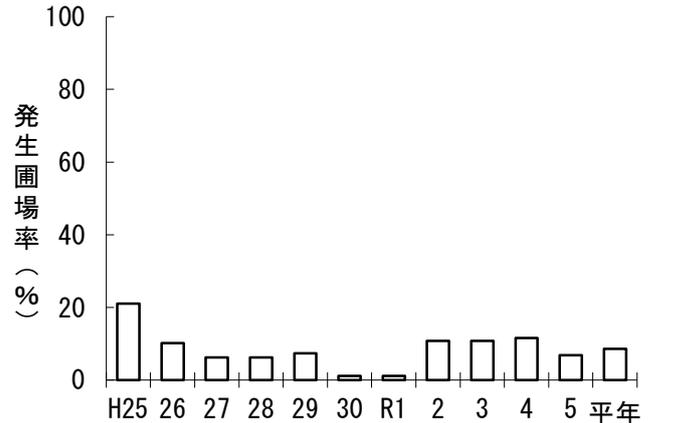


図2 上位3葉における葉いもち発生圃場率の年次推移（8月上旬）

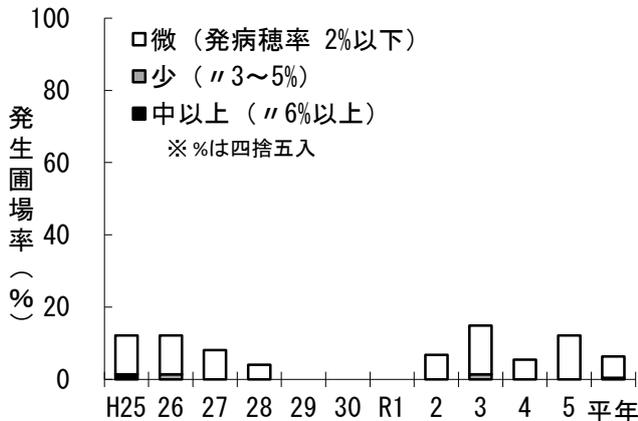


図3 穂いもち発生圃場率の年次推移（8月下旬）

2 紋枯病

(1) 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は13.1%（平年16.4%）で平年並だった（図4）。

(2) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は43.2%（平年39.3%）で平年並だった（図5）。

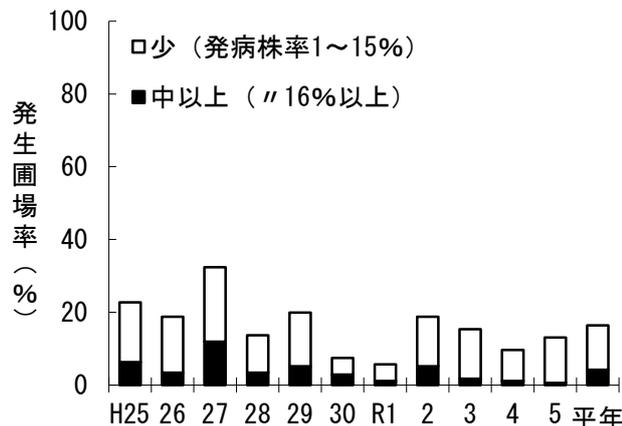


図4 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月上旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

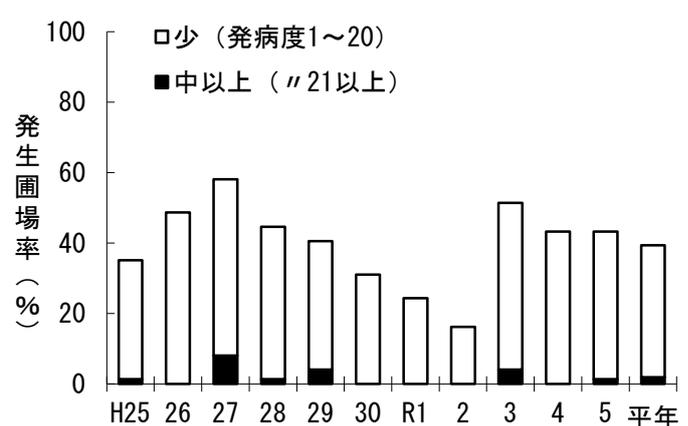


図5 紋枯病発生圃場率の年次推移（8月下旬）

※ 病斑が第3葉鞘以上に達しているものを発病とした。

3 稲こうじ病

(1) 8月下旬の巡回調査では、発生圃場率は4.1%（平成6.1%）で平年よりやや低かった（図6）。

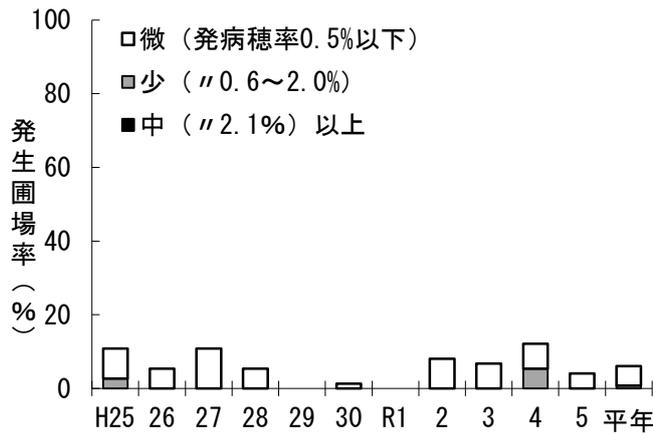


図6 稲こうじ病発生圃場率の年次推移 (8月下旬)

4 その他病害等

- (1) 8月下旬の巡回調査では、葉鞘褐変病の穂における発生は確認されなかった。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、内穎褐変の発生圃場率は62.2%（平成30.9%）で、平年より高かった（図省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、8月第2～第4半旬にかけてアカスジカスミカメ成虫の発生ピークが見られた（図7）。
- (2) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率54.5%（平成41.5%）で平年よりやや高かったが、圃場あたり虫数は1.9頭（平成2.8頭）で平年より低かった（図8左）。
- (3) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率32.4%（平成35.7%）、圃場あたり虫数2.7頭（平成2.4頭）でいずれも平年並だった（図8右）。

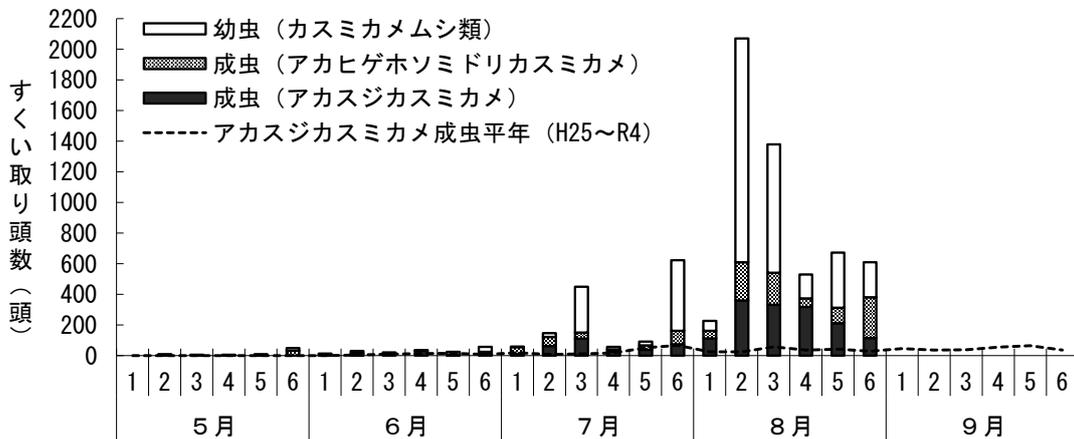


図7 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移 (すくい取り 往復20回振)

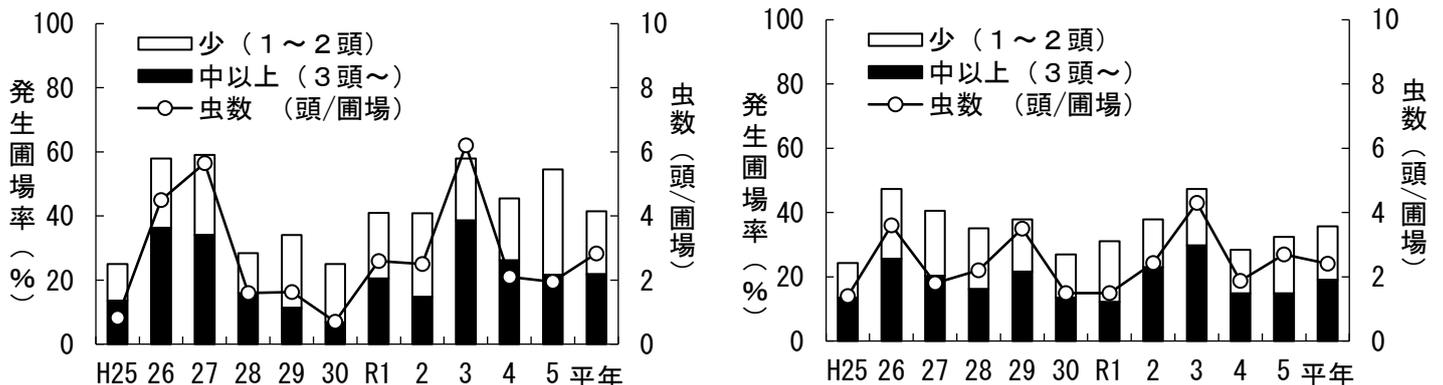


図8 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移 (左：8月上旬、右：8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振)

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は27.0%（平年34.5%）で平年よりやや低く、発生程度少以上の圃場は見られなかった（図9左）。

(2) ヒメトビウンカ

8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は70.3%（平年68.0%）で平年並であり、発生程度少の圃場が1圃場確認された（図9右）。

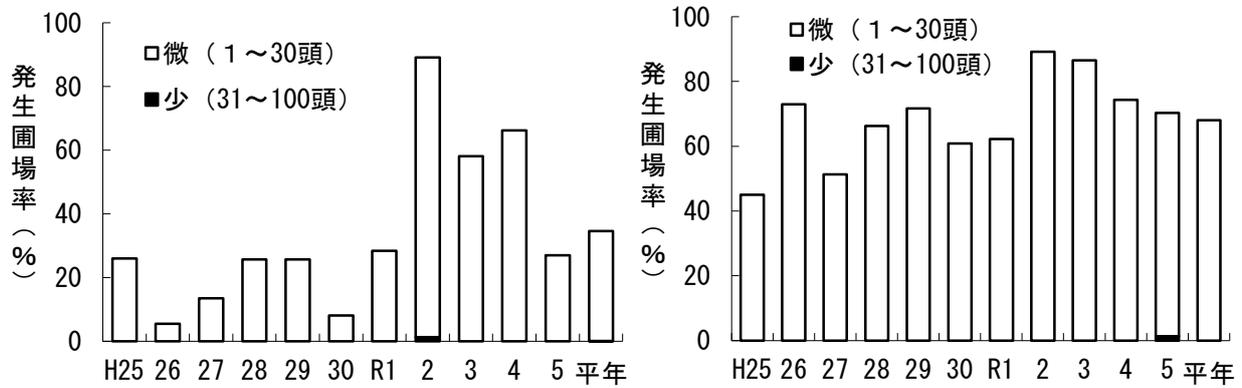


図9 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

(左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振)

7 イナゴ類

(1) 8月下旬の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は20.3%（平年52.8%）で平年より低かった（図10）。

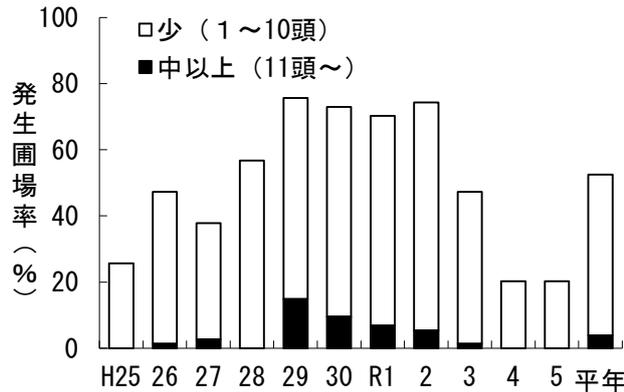


図10 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移

(8月下旬、本田内すくい取り、往復20回振)

8 ツマグロヨコバイ

(1) 8月上旬の本田内すくい取り調査では、発生は確認されなかった。